

件名	7陳情第5号 発がん性のあるPFAS汚染の実態を明らかにすることを求める陳情
<p><b>【趣旨】</b></p> <p>(1) 昨年12月20日の横田基地「立ち入り」等について、瑞穂町に住民説明会を行うよう求めてください。</p> <p>(2) 12月20日の横田基地「立ち入り」で終わりとせず、今後も、発がん性のあるPFAS汚染の実態を明らかにするよう瑞穂町に求めてください。</p> <p><b>【理由】</b></p> <p>(1) 10月3日付けで防衛省から「8月30日、短時間に降った豪雨により、横田基地の訓練エリアから泡消火剤の残留を含む1万2640ガロン（約4万7800リットル）の水がおそらくアスファルト上にあふれ出し、数量不明の分量の水が地上から雨水排水溝に流入し、施設外へ出た蓋然性が高い」と瑞穂町にも通知がなされたようです。これに対し、横田基地に関する東京都と周辺市町連絡会が対応、何回かのやりとりの後、12月20に横田基地への「立ち入り」が実現しました。しかしながら、「立ち入り」で米軍は何を説明したのか、何がわかったのか、私たちは知ることができませんでした。基地周辺に居住している私たちは、今回の事故に大きな不安を感じています。直接基地に立ち入りした瑞穂町に、住民説明会を行うよう求めてください。</p> <p>(2) これまでも横田基地でのPFAS漏出について、7件の事例を米軍、防衛省は認めてきました。この中には2012年に発覚した3000リットルを超える原液の漏出もあります。また、2023年1月に起きたPFASを含む「水」の流出事故は、写真付きで報道されているにもかかわらず、米軍、防衛省は認めていません。以上の事故について「基地の外に出ていない」という姿勢をくずしていません。</p> <p>しかし、2020年1月横田基地近くの井戸近くの井戸からアメリカの基準値を大幅に超える1340ng/lのPFOS+PFOAが検出されたこと、また、都水として取水していた井戸がPFASに汚染され、40カ所も取水を停止している（立川市、小平市、国分寺市、府中市、国立市、調布市、西東京市の給水所など）事実があります。市民団体「多摩地域のPFAS汚染を明らかにする会」が、京都大学の協力をえて、多摩全域の791人を対象にした血液検査で、米アカデミーが「健康被害の恐れ」があるとするPFASが20ng/mlを超える人の割合が、国分寺市で93%、立川市で74%、全体でも46%であったことは、衝撃的でした。さらに、2024年、横田基地の消火訓練エリアに隣接する瑞穂町・武蔵村山市の畑の土壌から13万ng/kgのPFASが検出されたという報道がありました。町民はとて不安を感じています。今回のPFAS汚染水の漏出だけでなく、長期にわたって泡消火剤を使用した消火訓練が基地の外の土壌を汚染し、地下水を汚染して、広い多摩地域を汚染しているのではないのでしょうか。</p> <p>横田基地の「立ち入り」後も、瑞穂町が、「横田基地に関する東京都と周辺市町連絡協議会」のメンバーとして、町民の命と健康を守り、水や土壌など環境を守る問題として、実態を明らかにするよう求めてください。</p>	

※原文のまま掲載しています。